



古學御年鑑

全

52
7





四乃海濱うし子時出小人の心貴示和齊此
 道甚盡めで鳥の産る子すそを養と賦と
 目されゆゆとけいじりたてて武自ら此
 沖表業と始途途此は法業を期くせ
 成れ此等多しは事々其業まいつる
 分の業とて去四る取山の類と見え
 業とていふは其のせういふなりけ
 りく知ふ人と構也あふも伊左左とて
 古昔とりてるありて業とて鳥乳とて是を
 奪得し末古昔も多人の面のとくめでて
 知くいふなりけりしは事とて人知く名を

志は事らうとて世に法をききて因なりて
 造りてと顛沛しと古きとくれりすも凡
 りて形明ゆきとて女に人き。眼も清き
 一年東よりとり脚も澄りてくも一
 いづらの字もくもくも也。柳新一冊
 未だそのひもくもくもくもくもくもく
 葉折りてくもくもくもくもくもくもく
 といへりもくもくもくもくもくもくもく
 寂しくもくもくもくもくもくもくもく
 七百八ふもくもくもくもくもくもくもく
 其法もくもくもくもくもくもくもく

字もくもくもくもくもくもくもく
 といへりもくもくもくもくもくもくもく
 濁りてもくもくもくもくもくもくもく
 毛もくもくもくもくもくもくもくもく
 系もくもくもくもくもくもくもくもく
 毛もくもくもくもくもくもくもくもく
 今もくもくもくもくもくもくもくもく
 今もくもくもくもくもくもくもくもく
 今もくもくもくもくもくもくもくもく

集武天皇

其母驚而不用之便問之曰汝
前來時被母教勅好衣美食日
照明鏡其事云何御可說之兒

光明皇后

讀誦方等思大乘義念力強故得見我身又
多寶佛塔十方分分無量諸佛普賢菩薩文
殊師利菩薩藥王菩薩藥上菩薩恭敬法故

集德太子

道 七 寶 雜 色 樹 常 有 華
菓 實 彼 國 諸 善 權 志 念

後香栴院

海邊乃家心ふかきとてし
家塔湖
とわらふふかきとてし
あふのよきあはれくーをまはし

后深草院

あなまの
志願ふさあ
まののうら

龜山院

あなまのくさほのき
今やうの きんひさね
まらあえ

伏見院

讀人あは
うらそてにあは
ほくす次あしき
校よたきくむ
あ

後伏見院

あは何あはに
あはやふく雲の
あはよきあは
あはくちあは

後三條院

人
み
き

花園院

か
た
そ
か
た

後醍醐天皇

宇相出
下

後園融院

以
新
と
命
六

一條殿兼實

三月十日檢定

れんも川かれ心も一ほりもくはつりや
ありう若提心一隠渡してあふさのさき
すむさよのしぬれはまき、断ちぬ娘

同後京極良長

同道家

家醜飲己盡村中無酒世貴望
愁今和何語一佳花少不相南

一條殿持通

思りこりる事くん元
指去卯靴席取あひん
しんくま下寺くゆつ田急
お終え礼のよつりかゆ

一條殿兼良

乃右名出言好又たわおん今そまのそくふくまれ
けああまらつ世成つそめひまのそくまのそくまのそく
かあおまらつ
一
空八鴻事

新津國津良直村号法馬事

應永七年四月廿日

兼

者井三位

勝定院義持 も氏甲登

久我殿通具

奉後鳥羽院勅新古今撰者内也

同通親

常々ともわつらさくそのおのれ
初めしきまうらみうらみ
花宗乃く左右侍曾内院
る初て中めあやうれにうらむ

初跡後思意とつるうらむ
とあま院の御成

つらゆらうらひにうらむ
とあま院の御成

あまのうらひのうらむ

うらひのうらむ

うらむ

大炊御目公忠

一言し是等父也奉記見
今出川殿公顯

本儀難之下申之
一と物も申之
相承文行賜ふ事

甘露寺観音經

まこといかにうらやまの
在りの月とまらそいかに

長月の在りの月とまらそいかに
上宿明の光いかにうらやまの
まらそいかにうらやまの

日野殿後光

あやめいかにうらやまの
日野殿はうらやまの
まらそいかにうらやまの
乃とそいかにうらやまの

一条清經

同資廣

路若草
あやめいかにうらやまの
日野殿はうらやまの
まらそいかにうらやまの
乃とそいかにうらやまの

兩院三條殿實躬

善學菩薩道不殊世間法如蓮華在鉢中

春月

ついでに春月のあやめいかに
まらそいかにうらやまの

待苑

まらそいかにうらやまの
乃とそいかにうらやまの

同實繼

あやめいかにうらやまの
まらそいかにうらやまの
乃とそいかにうらやまの

あやめいかにうらやまの

乃とそいかにうらやまの

後忠

内裏歌合 寛和元年八月十日

歌人 侍 凡 粘卷 馬

寛和元年八月十日にちるにありよ
けを給て信人ともさしを給て
初合をけを給けうらまに
将軍將公は
さうして給むつとくまむて

源明賢洞

やうなふあふやうらまむつとよの
おふけいはいさしを給て
かてさるむねや

奉後鳥羽院勅撰集撰
後感

京松黄門
定善

奉後鳥羽院勅撰新古今撰有内也
奉後堀河院勅撰新撰撰者

いひくまむけいはいさしを給て
善哉法師の伊豆のくまむつとよの
わらふにけいはいさしを給て
むねねのきさしを給て
かてさるむねや

寒蓮法師

いひくまむけいはいさしを給て
かてさるむねや

中納言家持

あまのこむけいはいさしを給て
かてさるむねや

安嘉門院四條局阿佛

あまのくさきをひよやまに
しりす 凡何内とれ
いけいふれ乃るすくすくあけわち
いけいふれ乃るすくすくあけわち

中納言定頼

冷泉殿元祖為相

さくさくれさくさくさくさく
むく乃かきさくれさくさく
とやま山をれ家さくさくさく

入道三平親之儀

同為秀

さくさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさく

常野高直

同二條家為良

奉 毛山院和續拾遺撰ス

さくさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさく

同慶輔

さくさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさく

平忠保

同定為法常

一品庫子内款三雲寺侍々々々
ふれ人ふいふとたれよふんはせ乃
たれんときふをいぬけは

公忠朝

同為世

さくさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさく

如願法師

奉 後三條院中時形に撰後三條院
中時様を撰後醍醐天皇御時後撰
勅西三集撰之

新式目作者
同 為 德

奉 後園融院勅新長春退撰
同 為 重

Handwritten text in large characters, likely a title or a specific entry, possibly related to the '同 為 重' label.

同 為 石

飛鳥井殿
雅 經
新古今撰者内

Handwritten text in large characters, likely a title or a specific entry, possibly related to the '同 為 石' label.

同 兼 雅 尚 安
一 位

Handwritten text in smaller characters, possibly a commentary or a note related to the main text.

Handwritten text in smaller characters, possibly a commentary or a note related to the main text.

三 姉 和 歌
建 仁 二 年 三 月 廿 日

題 讀 師 左 大 亮

謙 師 定 家

春夏秋冬
意格
Handwritten notes and seasonal indicators.

江州海津上尾山天祥宮藏物之新成金泥之法華十部并心經阿彌陀經

管家

妙法蓮華經序品第一

如是我聞一時佛住王舍城耆闍崛山中與
大比丘衆萬二千人俱皆是阿羅漢諸漏已

摩訶般若波羅密多心經

觀自在菩薩行深般若波羅密多時見五

佛說阿彌陀經

如是我聞一時佛在舍衛國祇樹給孤園

同

新心經阿彌陀經筆跡
少致言リニ也押又

高麗殿長推

年用見

此の如くは多の如くは多
くは多の如くは多の如くは多
の如くは多の如くは多の如くは多

神皇正統記

織取の如くは多の如くは多

織取の如くは多の如くは多

速武の如くは多の如くは多

多興福寺の如くは多の如くは多

東と洛頂由河
梨と穀安し
子

寺と寺と寺と寺

世尊寺殿伊經

山嵐雨時鳴風暗野寺

蘇邊遠月岡

直移入夜燈
目前順

同行能

佐家三三義内

かゝりかたはあやうき
ゆかりくこもくさ
くらしきまゝに
まゝの人のまゝに
まゝのまゝに
まゝのまゝに
まゝのまゝに
まゝのまゝに
まゝのまゝに

同經朝

万里東來
何再日一
生西望是
長襟

同定成

水碓半邊橋
羅谷山月初
昇橋園

源重之

同行

世宗方三書

わらわらよかたれてすれし
こやまのこころみよかたれてすれし
影さす
おもしろいことわらわら
河風さむらりよかたれてすれし

玉残を教むよ来

えうまを解ゆ伏惟

清水谷殿實秋

尋花
いよしのちれとくたわれ
くまうかきも驚うま

小倉殿實名

あつにまのまをむしあううく
るくあつがへるうまあまにそわに
いぬ應徳のまのあまのうらなふ月
あつうあつうのうらあひやうれつさ

橋本殿實友

友山かえふ良乃

葉書うくうま

はまうー母様

いづを葉れ

早松殿資高

早松のうまのうま
久のうま

かきうま
かきうま

白梅のうま
かきうま

六條殿有患

東二冬^院此御領とて也

—い久き事なりと

み、修てつこいん近うんはをこころい
はいりぬるをうらな

老

れもてしてそのたつてはれりぬるんどの
其はむいんたき

宗子親王

運宮善藏

符瑞面三比鳥者名曰龜^{見之類}石壘^{石壘}

^{見山海}一曰其色青赤處而方

由中事^一 節^{善子}

あきちきりこの其ににりりす
我にんせりたかりなりやせ

造州初素名

一系一り有法第

領は一り人々抄第

修也

乙酉十月六日 号院

多多ノカ以反

勘解路殿尊詮

トア線一恵

カシシカノトシカノシカノシカノ
カシシカノシカノシカノシカノ
カシシカノシカノシカノシカノ
カシシカノシカノシカノシカノ

カシシカノシカノシカノシカノ
カシシカノシカノシカノシカノ
カシシカノシカノシカノシカノ

春日家集

秋ハいまのやまのよ
のうきしうき
若原守理

七夕よよの 修理志願季

清守因冬

あまのはなまよりいふよわき
はらうんこくもねのうきし
板のうらみね船のうきし
うらみね船のうきし

同 四夏

百首中 小普門 弘徳深ゆき
まよせけり 宗徳院 宗徳
ちいをえちひんれんよたふ
つせもるのまきまきにいし

うらみねのうきし

ゆきし

いりてまらせ

ゆき

頼業はば大原三叔内
年一然

和漢朗詠集作者

四條大納言公任

鳥下娘 燕 春 苑 深 蟬 鳴 茨 葉 漢 宮 秋
と年異 例 腸 先 節 不 是 蟬 悲 客 空 也 管
来 古 咸 未 聽 不 復 言 燭 後 之 而 也 紀
なほわまのいほのこふふれたるれを
そらに地をみたりあをふりし

藤原基俊

花明上苑軒馳九陌之唐猗宮山社月塔
つらなるまはよがりし水のま
いひけぬくまははかぬ

詠百首和歌

元日宴

家隆

もろ人のきこらむいふのさる月
ひりりえくさくあそむる
餘寒
ちるまてそえゆふしるそを
のらるえけりしちるそを

新家隆の切之年必を
与くう並有はま
はる又目利一及一而り
を以るを批判し
是と押

弘法大師

江別竹生嶋常行院空海依為宿防大各号并法華經看物也
昔一那八卷内三卷無失却同四卷高野山送今式卷相殘内也

妙法蓮華經勸持品第十三

今時樂王菩薩摩訶薩及大樂說菩薩摩訶
薩與二万菩薩眷屬俱皆於佛前作是誓言
唯願世尊不以為慮我等於佛滅後當奉持
讀誦說此經典後惡世衆生善根轉少多增
上慢貪利供養增不善根遠離解脫雖難可

同門弟
真濟

今時大衆自相謂言大覺世尊前已為我等

傳教大師

叡山樹切

所作故非正非故所以者何以一切
識住者起者不可得故舍利子乃至
聞乘本性不生一切獨覺乘大乘本

智證大師

三井寺中清全傳記

性空與佛十力四无所畏四无所礙解大慈大
悲大喜大捨十八不共法无二无二分故

慈惠僧正

已告諸慈當前是創制此是隨開若
有難緣不須囑授是故我今為諸慈

魚養

知節度行來无忌其中持戒比丘我完具者

慈覺大師

我所見我之所念入山中如我不

親鸞上人

光雲无碍如虚空

一切ノ有礙ニサワリテ

光澤カクモ又モクナキ

難思議ノ歸命也

代目沖文ノ作者
蓮如上人

南無阿弥陀仏

日蓮上人

あまたの悪業を
みよの心を
夫のまに
よの乃の
幸の
南の時乃
よの天
二乃
名乃の
目乃の
二乃の
去乃の
名乃の

身延日蓮

右北條消息

日蓮大聖人之遺筆下

各々也

實永才十七

五月廿四日

本代沙門



慈鎮齋

うはゆるんあまのうらわん乃とれ
あつらはるんん乃にうあひる
女のうらわんあま
うむれと哀れと志うらわん
うらわんあまのうらわん

奉祀庭訓之作者
玄惠法界

自向何時恨曉鐘銀釵不劫荷黃範
尋常一板長門月有兮愁心便不圓

二函法親之受勅

五寺府主

景尊

夕つものうらわんあまのうらわん

あまのうらわんあまのうらわん

あまのうらわんあまのうらわん

あまのうらわんあまのうらわん

多年と奉懐一付は元と枝を

意疎紹丹前者陽祐乃と難題

案と誠恐謹

卯月 日

権律師

望秋新月夜

思詩海雲

風雲又々情

青蓮院殿尊道

同道園

仁和寺殿寺竟

露於禪林之枯株
試法無河若法水

所正し徳なきは
帝ヲ心むの事
子細事也
月ナラシ

同臥融

實相院増運

古今歌板書

春

こゝれに其の美しき
あそびに
あつたは
あつたは

実相院藏

仁和寺殿寺竟

から

こゝちあつたは
大徳正行其
あつたは

源宗平御作

あつたは
あつたは
あつたは
あつたは

醍醐成實

いかにあるに即ち此の
こととははなはた
らんこころの
うらみなり

覺世

明惠丈

赤三庄海門三好

阿若長俊

阿羅漢世居下有三宝珠印

吾可有三宝珠也

阿若

阿若誰人瑞三身大宅塔印

吾の四大菩薩の法也

阿若

阿若阿若阿若阿若阿若

付也

文覺上人

いさしの清き水に二葉あり
せむきまひりんくふのみの
いりのり云 阿若阿若の如
いしくるの如きたすまを
いけらなり

深淵の如

三好

望置窟南山解脫夫人

耶般河ノ七滅ヲ云リ
同交束解脫祇毛了夏陀真
享文
付ノ向ノ意ヲ達摩禪ホハ真
カハリ

阿比法流度云

奉供
七増供ノ箇度
消摩徒ノ箇度
諸神位ノ箇度
奉念

安位寺經覽

南太系流
慈信

佛眼真々々通
七日真々々通

一喜他申耶般河一重立他申法耶般河
第一重け二重ハ一重返シヨ法用第
カハ法法志方ニ指事申一何達ニ法達

は華之部
信覚信印

うつらへん花をアをいふ
花を其れを人よりまうり4号也
顯一ノ事
うくはすのたの人のよきそ見世にうりや
吹風をそ事てうへんうりうのい我やそ
ち花乃がくふいとそ物やうそ我くひん
典侍論朝書

志眼法部

志の心
ねばる心
あつたの身
心は所
ねらゆ

三才作者
兼空

服法家 啓名 兼空 法名 兼空 法名 兼空
先家—先繼—先春—

大德寺一休齋

一休の号
墨斎

心由の心

木心心

心

同實傳和尙

這風影轉活梯輪
三才三才絶比倫
斷際正宗徧天下
還他開五逆雷人

文信宗真拜讀

七寶瓊華之轉
多年東海袂崑崙
天荒似老無多眼
美由心所發黑
窟堂塔 空

同古詩和尙

玉 冲

古秋也又字玉冲

同大林和尙

是真是俗七縱

八橫若問端的

久雨不晴

前大德

大林叟宗套

同隱窟

天津際減淳旨禪欺世以麻粟微禹
常年魚我民臨濟山傳真大法持遠
業城作梁津寓公不煙秀林地

洛陽城之韻人

一木作需法律

三日了圓

前大德寺屋梁宗套

畫千三志之室

同春屋國師

同一東齋

此乃... 手向... 字文... 古... ナラズ... 山... 平... 派... 程... 也... 用...

同 五室齋

十方同系會
爾上學世者
此是選佛場
公忠及弟歸

唯此子書

同 東海宗朝

今日親何如
此地時定作
鳳凰

東海宗朝

同心溪

氣、菊、古、其、有、是、日、只、為、懷、和、竹
司法風

崇林閣道人

殿下お是ふ嬉以漸音を一首詠
玉龍津院の混塵俗の己の時吾師古
素嘆 禪佛唱紅字金亦刻類

心之境界

金瓶新母煙
鶴去古堂雲影
風色如菟道の空
而得淨心種時
照新鏡灯冷
清更清鏡烟

景虎在契

同可の成行
和尚の此平
かゝるを
たゝを
今しと見

長初寺虎園書

石の峰 経居最蘇入門先木の竹春

倫蔵

同龍吟齋

今夜蓮花雨
留人駐步
三秋茅店月
有友夢相思

蓮華高齋

湖山亦與云元行勝

高士出須者又

堆裡睡眠

看色堆裡坐卧

玉厨古陶更

天龍寺開山

夢窓國師

又字子...
わの...
ト...

中正藏主

移錦石通三

石屏

心屏佛便梳作尋步設草本個麻三行乾原極之林山下竹筋難以至釣絲
久立象惠伏惟珍重

妙法蓮華經序第一

如是我聞一時佛住王舍城耆闍崛山中與
大比丘眾萬二千人俱皆是阿羅漢諸漏已

佛說觀音普賢菩薩行法經

如是我聞一時佛在毗舍離國大林精舍重

小野草

月防白香積寺題
江刺津上尾山天神宮御遺
金銀砂子兩面...
一部之始終...
臣年...
臣年...
臣年...

同道風

於修果銷名
視視別

義佐理

人
一
存
為
以
之
結
轉
之
復
周
之
在
事
一
末
均
之
系

世考書友行藏

源三位賴政

皆是又殊叔化

五種講下下其切經末末見
二字下丁讀札脫九本經中
為秘安故且一品之內置別題自
交三丁成

一切在歌生

少石貝字及

細分
楚

物了
石清
持之
代
竹
之
心
無
成
乃
月
之
得
者
之
也
之
也
也

武田
九信

蒲道寸

びりおとこうわがゆわしてまはる
ゆるれ里かまらうきまにいな
そ乃ゆいあとな子統るる女
見ち乃くはあやうまはる
こまゆいあやうまはる

まつとまはるがひまはるあはる
秋の日はゆるる
待て乳母
秋の日はゆるるがひまはるあはる

本曾義仲内大臣坊光明

起元上正寺善提此諸薩行一一於彼彼諸善

螺川親元

詠法苑經二十八品和歌
序品
宮道親元
種るのの葉と息とよすふて

東野列末子
素淵

鳥居元忠
まはるあはるあはるあはる
あはるあはるあはるあはる
あはるあはるあはるあはる
あはるあはるあはるあはる

室劬

存草ふ衣けすむあつちり
わけてれあはるあはるあはる
仁和のそと見こりけりあはる
あはるあはるあはるあはる
あはるあはるあはるあはる
あはるあはるあはるあはる

初春霞

一わさくうすむ入はれむはゆわるるまはるあはる

昆広
ゆきのやまひりや月の
まはるあはるあはるあはる
あはるあはるあはるあはる
あはるあはるあはるあはる

三二

昔の字
月進

昔の字... 月進... 昔の字... 月進...

昔の字
故道二

し二羨は 月
又すを 月
きうきと 月
あうか知 月

月
き 月
あひひえ 月
あは 月

月
月... 月... 月...

昔の字

意

と海乃あはれ... 意... 意...

昔の字

本草
月... 本草... 本草...

昔の字

おのひ... 昔の字... 昔の字...

后花園院

冬屋
うきつらきしるはなはらぬ
雪そらけりかき雲のくまなき

同内尚侍

あかすくしのこころあけ
みられぬくまなき

后深門院

淡雪
あえくわかに根の露のうら
斗きあふりし雲うすきく雪

同内尚侍

あきなりなき雲もひらけ
あけくまなき

后深門院

あかき
はるかにあけくまなき
あきなりなき雲もひらけ

后深門院

月下露
あきなりなき雲もひらけ
あきなりなき雲もひらけ

正親町院

餘花
あきなりなき雲もひらけ
あきなりなき雲もひらけ

陽之院

祝言
あきなりなき雲もひらけ
あきなりなき雲もひらけ

あはれしむしに
きりぎりすの
さかき

まゆり
みづくはくはく
まゆり

まゆり
まゆり
まゆり

山忠殿

山忠

山忠

あはれしむしに
まゆり

あはれしむしに
まゆり

同

山忠

あはれしむしに
まゆり

同

山忠

あはれしむしに
まゆり

山忠

あはれしむしに
まゆり

同

往事 一くはるるにやれは夢
夢 夕まきくはし夢を思ひ守

九條殿植通

朝陽鴈

ひりあすの成けは松を
かりもちま家とくは松と

同忠榮

解 きたしみの形を松に松
かきあひせり末るくは

同

露 中花

くろある花をけるの露は
かよふ露花の春あまの露

夜 時鳥

くろ梅の夜をさす梅は
待とふからまはるる梅は

二條殿

風

風乃おとあきりあはれは
木のまきすこの秋なるせん枯基

同

あき梅もく梅を打鹿を
あきりかき梅あはれは梅

同

山 雨

山白春急かきあはれは
山を梅もく梅あはれは

同

宗子にむかひ形村のあをく
まくのさけをまかしてらん事を業

同

夏月

木はるるをう彩そまらるるま
つるまといそくなれはれ月産

一條殿

秋露

一を江祢をそまえてを花のゆん
水よりたはるはまのうを忠義

同

山家

露月

おろるるは六の山海しわ
いさるるを月よりまらるる

懐旧

一すらよわうゆげのさる人
六のまるとい海よりまらるる

芳 尊氏將軍

いさるるを月よりまらるる
いさるるを月よりまらるる

同 慈眼院寺東山殿ト頭後寺門院

契憑

さげありふ人乃地より
いさるるを月よりまらるる

同 常陸院殿

いさるるを月よりまらるる

いさるるを月よりまらるる

同

義熙清基

名不慈

日成つとく神の護とせしむるを
以て神は神に名を亂しず

同 大和院殿

舟に乘りて此松乃そ地を向也
しつとく神の護とせしむるを

同 法信院殿

月見をらまやと記し梅唐乃
く形をたぬ書ふひの文 義隆

東山後月明

曉露

津のれと神光さひき神の令
月を痛うはる露乃つるま

奇波志

かろる奇きうふあつとや志は道
るまは然もを志なり神久波

花山院 平大納言殿

銀乃志

冬

わろる妻は孫のめのをたひし時白
くはる人し社やとし年下 曾

同

ふらりるを志と云乃つと神しと
思へをけふぬらひやみお志 義隆

同

家雅改名

別名

美ふてくもをあくとまゆやとあひ
とくはふぬそつれつるまを義隆

久我殿

おろく
あのみぬまのひらりう人あは
くろく

同 具家

おろく
おろく
おろく

西園寺殿

おろく
おろく
おろく

同 寶晴

おろく
おろく
おろく

池大寺殿

鷺
河風もを吹とるあがり
見のきり衣雷とくはく音落

同

須花并推賢

おろく
おろく
おろく

同

池藤
吹風をのけあは地水乃
みはれあらの花乃あは信

同 庶流云濟

おろく
おろく
おろく

支塔

葵

まきしんしんさつらふちかおりのん
二葉此多のそさふふしつりかまの響

同

長柄橋

らへんさつらふちかおりのん
もくもくそさふふしつりかまの響

同

神念

らへんさつらふちかおりのん
まのそさふふしつりかまの響

同

夏草

らへんさつらふちかおりのん
らへんさつらふちかおりのん

今

遅日

らへんさつらふちかおりのん
らへんさつらふちかおりのん

同

梅友

まのそさふふしつりかまの響
まのそさふふしつりかまの響

四條殿

逢石

會恋

まのそさふふしつりかまの響
まのそさふふしつりかまの響

同

寒月

まのそさふふしつりかまの響
まのそさふふしつりかまの響

同

乃の乃一と柳少一がひじ
おころくころくき風そくく隆術

山科殿

比儀

まそくど方より詔より在柳乃田外
まそく一氷のひろく見替ん國

同

御後志

う所の人の心をあささるり
あつらひあさうとくたからん意

同

誰と

松の力いんあり業のいひく
この世のいんあり世のいんあり意

同

偽意

いんありいんありいんありいんあり
形や意といふは約のいんあり意

日野殿

賀茂

年一とのまありわのいんあり
かけよきも賀茂此瑞難 輝資

同

郭と稀

まそくたれ 雲井屋と郭と
初者乃一いんありいんあり資勝

同

恨絶意

我中よ一の祢よりまそく原
うろくしよきかれいんあり光慶

同
重橘

かひらもよひ出つてまゝに
けし志のふの打乃をもちも
談

同
新渡邊

あかしの徳ゆきよ
あやもや先氏

廣橋殿

同
新屋

まろ中がまゝに
孝の志をこころん守光

同
幸村

かゝるの志のり
又まゝに徳ゆきよ

同
樹陰

かゝるの志のり
志のふの村乃木乃
光

同
水鳥

あゆみの志のり
かゝるの志のり

同

頌
松月

あゆみの志のり
あゆみの志のり
松の山乃
總光

同
藤竹

あゆみの志のり
あゆみの志のり
藤竹

竹お師 すのけららたのすこいむいん
ふうふうとさきしなれ竹 道徳

風 おろくふ吹くらわ風のそよ
うき草木乃人よみん 光宣

逢不同會 し未をいめりもきててい
恋 あまのこをがくひんん

柳原殿 秋 つばき つばき
つばき つばき

歳暮 まといひ秋て人なるしあつふ
水 のせりあつていん

春月 はるゆきあつていん
な いん

折梅 あつていん
は いん

宜敷風 いぬけかきあつていん
と いん

小塩山

そとむらじのふしの葉もちるよ小塩山
志くさくさの松がけりる松の

甘藷手紙

花柳頭

うらつとあふれおぼえ代のもよめひ
ねいよて花とささけしるる親女

同 津波

深衣萩

いづくの長衣はそひてあつよれ
折れぬ萩の風がらるる蓬草

同

赤花

梅友

ちかひ乃も陰と存案の世に
密に花の是とけけしるる長

郭公頻

所をいそぐる一葉もれ恨を
手書につくは郭公の長

同

善秋河

古田から一葉もれ安を
秋とささけしるる時長

同 庶流

池藤

池多ふらつり一葉もれ
たひさのひもる池藤川縁

同

松下

納涼

若の葉もれ吹く松を
木れ下はあめをりるる

寒草霜

花を以て葉室といふは色こそ
霜のよきそふ冬に色をけし頼宣

同

海色松

凡かき岸の海草の世
立おかしき人任吉の松頼業

万里路友

頭後河内院

貝恋

見よ光津のやぐらに
あつらふる神さうめ賢房

同

美月

ゆくを水かきとも又あきさ
閑より月のあはれは了す香房

同

春月

生るる月の今よゆけを
ともしき春風をさかしく賢房

同

春竹杜

夕月夜つらめは新や本枝乃
森を志くきりて春風は頼業

同

萬蒲

杯を海さけの女さかき蒲子
あつらふる世に乃て是れ頼業

勸修寺殿

湖畔

志賀の浦やあけし春のあす
見よよぬ浪よはらゆき教房

同

夕雲雀

春をいそぎききあけはくち鳴ひたり
ここの緒とやも秋も織り人騒

同

空村柳

わびもなかり此色もつひ乃
あに大なる春もや花け嶺

同

野分

野分

くち風ありききとみそあけ
ちらもあきとみそあけ

同

水鶴

秋の戸のしるもよもあけ
あけのあけのあけのあけ

同

日月

あけのあけのあけのあけ
あけのあけのあけのあけ

秋風

あけのあけのあけのあけ
あけのあけのあけのあけ

同

青山

あけのあけのあけのあけ
あけのあけのあけのあけ

同

雨後

あけのあけのあけのあけ
あけのあけのあけのあけ

月下 うよのしづかに花の可なり
角木 芝のよふくまのまじりて 宿

宗祇 又宗祇の心むねに松のや
子也の君もくわす 魚屋の嵐

述懐 おもひの力に北の形はまなく
地はあふれぬ代とけり 倉の暮

月 秋風 吹とらぬ色の暮なり 月影を
うらみおきしうらみ 國の津波の暮

爰在 わたしにてもけり心成るるおくま
あふくまのまじりて 何れかまきん 嵐

野 阿ののくまの野のまじりて
はたしなまじりて 何れかまきん 嵐

寄 さいせん 人のまじりて 海のまじりて
ひまわりんのの 抱きまじりて 水也

寄 寄花恋 寄花恋 寄花恋 寄花恋
寄花恋 寄花恋 寄花恋 寄花恋

同

寄録心

清くはくはるるのこゝろ
しづかにしづかにしづかに霜

同

氷

雪はしらりうのひく生るは
寒えぬあうやわりのらん雲

雨院三條殿

暮暮時

ちりばり暮れはるる
暮れはるるのむらさき梅籠

同

青月雨

あましめ平天衣をまふ
神志はるる月白なるる

同

梅葉虫

ちりばり梅と虫はるる
おれはるるのさきしりの之實福

梅の花

白くはるる梅の花
又それちりばり花をあらはるる實有

四三條殿

樵吏

薪とゆはるる梅の花
清くはるる道志をいかに實隆

同

夢事

さなほじつにふつ梅をいかに
来り来り来り来り来り来り

同

紅葉 夕の霞のたわひく代は秋の
不火 夕の霞のたわひく代は秋の

同

閑寂 雪井ありてみあはれせよ橋の
夕の霞のたわひく代は秋の

同

不逢恋 夕の霞のたわひく代は秋の
夕の霞のたわひく代は秋の

正親町殿

山落葉 冬は葉山の下なる若葉の
夕の霞のたわひく代は秋の

同

鷹狩 夕の霞のたわひく代は秋の
夕の霞のたわひく代は秋の

同

書月 世にすくはぬかたあるは
夕の霞のたわひく代は秋の

同

待月 夕の霞のたわひく代は秋の
夕の霞のたわひく代は秋の

等月 夕の霞のたわひく代は秋の
夕の霞のたわひく代は秋の

澤田 留のうらみめくもたれ
秋夕 いふまはり鶴はりてと澄

四辻殿

月か 下秋を月きくされ
閑歩 中夜乃まの清しきり音

同

秋 風ゆき矢しひわもるはるる業と
りまの秋しは秋れ静なり非遠

同

春駒 中夜乃まの清しきり音
中夜乃まの清しきり音

水鳥

水鳥 中夜乃まの清しきり音
中夜乃まの清しきり音

同

園霧 中夜乃まの清しきり音
中夜乃まの清しきり音

同

産院

里中 中夜乃まの清しきり音
中夜乃まの清しきり音

同

御島

夏雲 中夜乃まの清しきり音
中夜乃まの清しきり音

約守志

志守の事... 約守志

同 類の類

庭雪

庭雪の事... 庭雪

川猪殿

水底

雉神

水底の事... 雉神

水五瀬殿

頭懸

水五瀬の事... 頭懸

海霞

海霞の事... 海霞

岡兼後

岡兼後の事... 海霞

雲間

雲間の事... 雲間

杉本名

原三
行人

原三の事... 行人

岡

夏木

とくろくく葉のり秋の風は
清くもりうらやまの松 宗満

岡

鐘

羽子の音乃り春と山は
さゆももまればはるの春 宗満

岡

秋色

林の影もやうに深儀は
宗満

岡

宗房政公

庭敷冬

あまのむけ枝をこぼれは
とれまればはるの春 宗満

山家

山よりすむ身もまはる
はるの春とやわらうん 基春

岡

五劫魚

大さなまきけおとさうての
志のあまりの春は乱れん 基春

岡

新雪

心より雪のみにちるを
木たぐみかたの松枝 基春

岡 基春

らとゆまをさしつる松は
あまの春とやわらうん 基春

眩
一もいづるありきばまののめを
おひやくくくくくくく

同

立春
ま乃海や治より春のたのみ
おひやくくくくくくく

同

興

おひやくくくくくくく

同

思

春のたのみおひやくくくくく
あり。の櫻をみちまはる

浦

おひやくくくくくくく

同

海

眺

おひやくくくくくくく

同

中山

初

おひやくくくくくくく

同

不

おひやくくくくくくく

同 津の川を流る 類名廣

牽守

身心此にたもたむけしは別道路を
たうとくは神も心もわたりを懸

同 乃和沙也

月乃あよまけあふ成ふは
棹よりあつた淀の川に 明器

同 藤谷友

蒼為 石衣 女子のかけし衣と入つるふ
岩下のとろ岩のまもふと為賢

ト 乃和沙也

秋田 小野のやあまの船乃あまを
わたりし木の葉と流るし

あふ 過ぎ 多しきや枕をえさのあまの
あまのあまの袖とみせても政為

同

霧中 送日 ちを任つてあまのこころ
あまのあまのあまのあまのあま

同

久恋 秋枝うらなふあまのあまの
あまのあまのあまのあまのあま

二條家

霧根 くらと又野原あまのあまの
あまのあまのあまのあまのあま

初言

はなはたのこころをいふに
しるすことと神をいふこと

回家

おまにわがこころをいふに
おまにわがこころをいふに
おまにわがこころをいふに
おまにわがこころをいふに

又月

たしづかぬ月をいふに
たしづかぬ月をいふに
たしづかぬ月をいふに
たしづかぬ月をいふに

を

を

をいふに
をいふに
をいふに
をいふに

夏田

うしろのうしろのうしろ
うしろのうしろのうしろ
うしろのうしろのうしろ
うしろのうしろのうしろ

猿

うしろのうしろのうしろ
うしろのうしろのうしろ
うしろのうしろのうしろ
うしろのうしろのうしろ

寄江

うしろのうしろのうしろ
うしろのうしろのうしろ
うしろのうしろのうしろ
うしろのうしろのうしろ

湖地

うしろのうしろのうしろ
うしろのうしろのうしろ
うしろのうしろのうしろ
うしろのうしろのうしろ

同
お祭

志く禮を向ふより此禮の法は家より
しるす事なしてさしつかへなくとも
難

同
釋教

しるす事なしてさしつかへなくとも
難

同
王服若

言古くして形も成る事なして
事なしてさしつかへなくとも
難

同
後祝云

礼の由は礼の事なして形も成る事なして
事なしてさしつかへなくとも
難

同
初意

あやしくもさる事なして形も成る事なして
事なしてさしつかへなくとも
難

同
お祭

しるす事なしてさしつかへなくとも
難

同
お祭

同
怨意

しるす事なしてさしつかへなくとも
難

同
お祭

しるす事なしてさしつかへなくとも
難

同

隣栲衣

夏にたぐむにぬきまの 中より
白くぬきま衣にうた 雅賢

同

夢原恋

月日あふ海を渡る恋
かきわたりぬむじの 雅賢

同

一夜

云はれぬのよふに 宿は云
大申くがやまふに 雅賢

同

雅賢

船中月

月あつていかに 舟中
をのりていかに 雅賢

同

休後

世平を田舎に ともよ
むそとゆきまの 雅賢

元吉升次 彦院

如所

いかにいかに 舟中
をのりていかに 雅賢

七夕

夕べの星あはれ 舟中
をのりていかに 雅賢

同

二葉斬

野徑虫

三日月あはれ 舟中
をのりていかに 雅賢

同 雜原山記

地儀 六十一 一と云ふは日の子の事也

同 同津懸

不遇意 河津と云ふ人志公乃ほくも
きよと云ふ人もあつたなり

庭田後

山家 八箇人らのあらしめりて
そとにせんふか乃唐羅行

同

石瀬杜 三河のあつた人のいふすに
りては其のあつた人の事也

孫者

かゆりてあつた孫の事也

海初

孫子の事也中略すむ重親

同

菊也

仙人の事也やまのじりく菊乃
よりしをわくをのこく重保

同

序思

誰と云ふはこれぞと云ふ事也
うらひはつたがひもよく書通

同

忘早苗

早苗の事也田舎に書目
そくもこの行をせん重定

同
里者葉

うらつ時毎々に此花枯ら
ぬ葉、こころにけりとの事

同
鶯

いづれかたは流るる鶯も
枝にしがよき音響りては

五上五

離菊

あはれもかきとけりては
よきあはれに心は離る

同
古後菊

枯れわたる菊もよき
あはれに心は離る

同
山家

あはれもかきとけりては
よきあはれに心は離る

同
博衣函

あはれもかきとけりては
よきあはれに心は離る

中後五 類 中後

同
成暮

あはれもかきとけりては
よきあはれに心は離る

同 也是折也、公案 逆折西條實澄也

あはれもかきとけりては
よきあはれに心は離る

同通村

秋の記の事おもわきあり
おのれはくちあはれ

北畠殿

黄葉

秋のまじりてはるかに
あはれはくちあはれ

同

石瀨

おれはくちあはれ
あはれはくちあはれ

白河殿

石瀨

あはれはくちあはれ
あはれはくちあはれ

雀鳴

首代

あはれはくちあはれ
あはれはくちあはれ

同

惜別

あはれはくちあはれ
あはれはくちあはれ

四角

あはれはくちあはれ
あはれはくちあはれ

同

遠歸

あはれはくちあはれ
あはれはくちあはれ

田家雲

風わらわら田家の夕暮
かきのこころもくく暗直

山鹿列
山鹿列をうらづきしは鹿のたけなほ

文章

かきかきかきの文章
かきかきかきの文章

家月

月あはたけのちこり思ふや
かきかきかきの文章

月本坐

秋も月うけり月も秋と
かきかきかきの文章

鶴有四

獨鶴昂然依玉欄猶如西光白髪須臾
斯翁罷唱此紫芝曲高嶺松金顔色寒

霜
かきかきかきの文章

水心

水心
かきかきかきの文章

冬月

冬月
かきかきかきの文章

原茶

穠秋乃るのサオホ茶
しほく見まじし 蘇州のうら若

東坊抄

長勝

那

由事は戸をくしあけしのかん
あふまはるる秋のとき 和長

松蔭

少くも月を葉とて
まよとて梅木はあまをくは

眼縁恋

かみ針の程あつて申結し
心のきやふをうらみ 慶

寄雲恋

ねふまの申りもたつ白雲乃
ゆゑを山つしあふまを信房

あふまの申りもたつ白雲乃
ゆゑを山つしあふまを信房

早春

たつらつるまのきりたて書乃
あふまの申りもたつ白雲乃

傳法輪三條殿

時雨過

又白紙やそふらぬ山を
めくはるるそふらぬ山を

同 公教沖波

浅

水へ入るはまの浅くも深くも
可くも高き（法）そめちやのりて空

同

五月雨

谷水をまじりて雲はくもあはら
りしれんくは青の雨はひき

同

五月鳥

万子とりたむしりもさきや
毛のりつはつる眼乃よそ頼

同 幼鳥斗及推定

枯月

片うの月れ志のさよふれと
枯の本影のるもたふ子實

三

月

あつて神とるさ乃くはしん
あつてまな月もや〜

高秀久

淡菊法

菊のよふ菊のよふあつら
〜の菊のよふ菊のよふ

同

晚雲

夕暮の雲は古果のつる雲
〜の雲は古果のつる雲

勢多

海路

眺望

沖へ渡るはのちのつる雲
浦のりをよるはあつた隆康

雪花

晴る方には雪止ぬ夕雪花
かき雪を身にまといたる隆岡

逢總

江ノ原松と今も下細の
とけくはれ 春の光を隆量

米屋

徳く住家居もいそぐ花と
河とるしし春乃とれ 歳

海海

比佐神坐のち身を命に渡り
浪浪浮舟か海家より松林

いぬちか庵ありあつれそよよ
人よと海をたこし白波

空の月

月れとらとわのいさせを
くはれはせもくせはるる

野月

秋風の空よりつる月と
あそびさしきかたは白鳥 保房

お茶蔵

むらりし志くまははあそび
とそよびあそびのあそび高清

高倉冷息友

定宅

那孫

神山路友

さとりをたしめぬをたありのよ
まなちりあうもさけけり
永宣

竹

竹りあ場をまけさ枝と中道の
かみ縁はたのまはきほりか
春總

同

園叢

自枕のまはたけり
さやうにさうやうとあふり也
海継

世尊寺友

野見

春乃野見さいひく
と成り雲丹母まふむり
行季

同

獨見

ほり穂をささめ
春月 誰よとさめ
春乃平月實頭

同

秋橋

しんをのあさる
夢路なただ好る
公福

同

いぬはらうさけり
なふりてひく入ぬり
孫公業

同

松

浦るみも言え
るねく年うり
松聖公根

春雪

山松何ぞもて色をとえはのうれ
花らるる雪も風かぬ葉

小倉名 類名廣

月

おまほらうらみ然きさういじのあまふ
山松かちうくても月れ 季種

栲印名

時雨

のうらみくをたれ木もあつゆふり
そあそつくさひさうれ村邊人季村

平松名時雨

い海もかうんさふんかももさ
ほよせは梅とわのりわさ

霧

雪うらぬみ霧とくゆぬ若孫踏
わうら霧はすきとゆくと霧

同

藤

さびか海松うらのゆてゆく三藤花
さうひもあうりまは紅花 基音

同

葛風

風あまはう、花あまく葛のれ
夕雲うら霧に海きつ 基種

同

寄水

あまうらみ絶わえはりの志うら
又散 粒あ、水をしすひうらん 基種

河花

氷よりあつらひくしほの花もいま
栢のちかむるものやま川 曇霜

同

松

年久

色をうつ松乃ちら姿のそけふ
はきくへくそん音川のそき直

同

遠夕

よるたのさみ山 涼 伴 詠 山
うすきと月雲乃り夕をけり後詠

同

栽花

おろまんの川の花を種とて
二葉の栢のそりてける代 若流

夜夕

あかりし元をすくらていふ
風はしりの中をたきよはる 簾

同

社頭花

神のさや見むらた山乃り守
花乃ちち抱ぬのそら山は 簾

同

夜夕

あつてみし月よさみ人
奈をけり社をそはるひは 簾

同

女前花

おろめを枕る野乃ちる見
あつしうふしそきそるあふ簾

更衣

更衣なる多かりけるは秋
の建てるも花の香も秋の重治

六條

君入のやうき秋の霜有廣

同

若品

春曙

横雲のくもは
さきよりの山部

同

傳書序
くもはさきよりの山部

伏見の法崇光院貞成

在郷

常坂

きよなるは
さきよりの山部

同

後花園院御令身

竹鷺

いしむせは
さきよりの山部

同

様急

思ふは
さきよりの山部

同

有乳山

津のるは
さきよりの山部

同

荒花月

月しわきえん月世よ河ぬあき
月る月よぬ花夜月籍

同

初花

さら花さだつるまき花は文
あしき月ひる初花ん 貞康

同

唐多

近枕 物あく枝まのわらさ
物とへはるる月あき那唐

同

空楼

流すし神うらをてみさ
流すし神うらをてみさ

八修

恨身忘

志違ふ思ひつるてと
うしろのまの思ひつる

同

白雲のあまのこころとて

かりし思ふまのまはるる

ちね

物のん家たら袖ぬれく
妻やせしめおとらや

妻やせしめおとらや

同

寄草思

たりのまの思ひつる
たりのまの思ひつる

送春花

けりて一也昔もそまのる花は
かゝるもあはれもいへん 在敷

堀川友

夕立

夕立の雨はあつた
河を流す水もあつた
山は静か月の光

花園友

梅苑の香はあつた
夕立の雨はあつた
山は静か月の光

七條友

嶺頭鷹

嶺頭の鷹はあつた
夕立の雨はあつた
山は静か月の光

梅川友

古雪

古雪の影はあつた
夕立の雨はあつた
山は静か月の光

河

呼子鳥

呼子鳥の影はあつた
夕立の雨はあつた
山は静か月の光

久世殿

湖月

似珠

湖月の影はあつた
夕立の雨はあつた
山は静か月の光

中川殿

花似雪

花似雪の影はあつた
夕立の雨はあつた
山は静か月の光

裏過後手福

よきなるたきしるさうみかろき
まよのころを乃くけしき

千種殿有能

あなはれはらうみ
ゆきしるはれしき

塩少海友

雪郭公
里まれて静も村もむれ郭公
おれつしきまれもさう静

山石舎殿

困山月
山石くさるわはのてみ月
ちるさうみかろき

松物春
まよのころを乃くけしき
まよのころを乃くけしき

倉持友

寂静夢
しるさうみかろき
しるさうみかろき

生士官務殿

餘花
まよのころを乃くけしき
まよのころを乃くけしき

同

曉鳴
まよのころを乃くけしき
まよのころを乃くけしき

石木花 山さくらさくらにほりに成りし
之移りしあやう花もはるるすて
古所口友

霜埋

流城

風法を特乃冬をねとありて
音りかた形もむのり雪蓋
同

去月

春とたつ月のうらやまきうん
たつらうり新花のり冬を春重

佐不野本願

花浪

春霞千花のり冬を春重
花のり冬を春重

山本左百右

山川乃あさきやわたりし
きつはし波のきりたるり勝冬

藤江友

歳暮

冬乃あさきやわたりし
力りたるりし
同

鳥井山友

冬枕

冬乃あさきやわたりし
わたりたるりし

同

花

冬乃あさきやわたりし

芳衣云

春のあけぼの今にし心姫此
すも清らけりやわが世はさき

血事及内生友統了

連率

海と流木元まわ形ふじ辰はき
形かたふこ小ともしすり比長治

同

小友統了

恨怨意

所をのぞけ恨と今より心
と縁帯を免れけりけは盡後置

同

同

葛蒲

まよふふとふとまはあめ草
とぬ枝袖乃ふんたのりか集

同

同

梅風

咲くも中あけ梅いしく春かて成
いとこぬ花や春の梅あ枝集

二條殿内

官務

頭 允鳥井及頼庸

野旅

帰るき旅老う鳥と申り坊て雲
し流しとまき世の白く古塔若

年四友

允鳥井及頼庸内元

首尾風

春あけ下ふあ所ぬ花か白あとの
う勢あつたに花思つや霧

速水純水手

干鳥

波下りし流木の妻清あけけ
おしをこけ海ちるれ 親緒

よもやまのくはれす
あつらひのたれ

同

卯花 雪まはらわむ
似電 祀よりまはらむ

同

名所 名のみあはれ
名所 名のみあはれ

同

浦松 神をたもつ
浦松 神をたもつ

名取濱 ありあけ
名取濱 ありあけ

梶野の江

近窓 柳かたむけ
近窓 柳かたむけ

同

夏草 花うらみ
夏草 花うらみ

同蜻庵

梅花 浪のけり
梅花 浪のけり

同

夜旅

華の雲遊人のあしれり枕
多とこやこのさうなむる 寂胤

妙法蓮華

聞郭云

まゝあつて約えりいそ何なる
こねさひの枕と梅なり 景胤

同

松雷

多のわきまきり松の枝なれて
はのむ書もつら成り常胤

同 竟然

花匂

らこくもあつての梅にま
花のさくらもはなれ

大心寺

庭苔

松の根つづきの青はしとまに
まあり刀人きりしつとをく 義後

同

春雄

香はらふむしきのらとを
聖人かゝるく雄が性業

同

里梅

鶯もつとひとあつて山甲心
れとほる梅のさる 性業

仁和寺後一露下云

新記

そなたにあつてあつてあつて
花のさくらもはなれ 性業

同 真光院

松竹

今もまたあはれ世常なり
松竹はまはりの海も常なり

同 信女

落葉

さゆくりのこころのまじりて
わらわりの海も常なり

同 玄光院

経日旅

出くわりの旅の長と、わが海も常なり
うらなひの海も常なり

同 木寺宮 弘光院

磐石梅

ほろりたるのまじりてはなれぬ
まじりたるのまじりてはなれぬ

同 下谷寺

雲風忌

あまらざるはなれぬとわが海も常なり
あまらざるはなれぬとわが海も常なり

同

夏草深

あまらざるはなれぬとわが海も常なり
あまらざるはなれぬとわが海も常なり

同 廣徳寺通僧

あまらざるはなれぬとわが海も常なり
あまらざるはなれぬとわが海も常なり

同 道晃

あまらざるはなれぬとわが海も常なり
あまらざるはなれぬとわが海も常なり

秋白をききしに
こゝろ里のぬゆふとあはれ

胎子信長

立春曉
花乃まゆもあまのしほのつぼみ

同

芳玉色
みまのあかたしむの雲のこぼるる

同

夕霞意
いふまじつらあはれはかたむねの

山崎雪

河のぬふもあはれとてまのまに
たはれするはあはれとてまのまに

勝世信長

朝
清きるまの春をききしに初冬

同 若手寺名

今河氏實清長

朝
月くはれぬ心かたむねのつぼみ

實相院殿義尊

我がまのまのつぼみ
うきうきに時をわたりて

山花

山花さうのふもいさよみ
花とそあぢい花のちやも暮

栞風

たう袖より流るる風小
けもいそし栞風のひさぎ

後朝思

都とゆきよのあはれは
又移るる心神のよきそ

摘葉

むと度かたの刻方なる
た見おこるるは花葉の

惜別恋

あやとてむらうもあはれ
少げゆきよのむれち

四蒲院御門跡

雲霧

秋の雲はあ破の雲は
あさうもよの雲は

同常尊

霧

霧よき野をなつかし
ぬまの霧はあはれ

歩良 一歩陰

秋

秋のあはれ
月乃あはれ秋のあはれ

同

述懐

すけの世はかこくめいりふん
福免の床徳たつしぬらむは難

同

余もあつてぬさむかき
しん海しうてん音あつては勝

同

夏寺

君はしの律法乃とくまはれ
あつて念をたすまはる大慶乘

同大乗院名

梅雨

あつて口はつらつらつ月乃
しん海しうてん音あつては勝

松月悲

をたつみはれ松月悲もくはる
あつて念をたすまはる大慶乘

同東寺名堂主人

う他志をゆきまの座もくはる
あつて念をたすまはる大慶乘

同松林院名

社頭花

咲みらむあをまきうつし春日野
花はあつてぬさむかきしん海

同

夕立風

あつて念をたすまはる大慶乘
しん海しうてん音あつては勝

女是作

はらわふ以積業多うく又く是也
すうりき馬子かきし海心は専

同一真福寺坊官

まむ聖神のむもくはは
うらふかきけとあはれはま真

同 三善師 三徳

まえうしはきうしじうくはは
あふしと若くはふかた

同 三善師 三徳

山羅竹やまもはあふらふはは
とらうとみとふはははははは

殊病

舟中

まくをまたく夜あは多うり
とをつはははははははは

同

折菊

あふ又いそ神あまてき色と
あははははははははははは

同

初鴈

うしはははははははははは
こははははははははははは

同

あははははははははははは
まははははははははははは

同二

書事記

くまはきき道やき母の成りた
りしう言と并んてし色立

同二

梅

あまのそくは白ひき神小海より多
かり梅はくまのこちやうまぬ

同角寺連歌師

同

不逢恋 鳥羽玉れ髪より毛きぬく逢とむ
うらわのもしまの戀のうらわの戀

同

中子神乃よわひもあききあはの
立ちあふふあははる志か 志か

同若官社家

目恋

あまの戀はみづのちのひのちの
うらわの神のたまひぬり見

同美日社家

花遅

咲いて心かをそ久しきあはる梅
木乃あき花れあふみそを毛籠

同連女師

寄水懐

意

あまの戀はあひまかの神乃あ
なまのこちのちのちのちの

同
夏 仙人のたふさききり 霜は菊経る

同
寒 前作 今もさききり 由りのまへ 乃竹

うきい梅 志げ 幾時と 思ふは 心程

同
花

ふあつ人母をせえり 心づきの
せり 流るる 花は 心づきの 花

同
為

麻を 経る 花を 心づきの 花の 落る 花

同
卯花

似目 卯花の色を 心づきの 花の 落る 花

同
木津 心づきの 花を 心づきの 花の 落る 花

同
竹梅

折梅乃 心づきの 花を 心づきの 花の 落る 花

三升寺僧

紹四郎子

寿 西 志

久まき言 心づきの 花を 心づきの 花の 落る 花

安住寺殿

春

都仁毛の地心高海ら説ん
はたさつ了神くゆかりのし長所

積善寺殿

春雨

春を本より積ぬかふらさるるや
かろ人の神女あやゆまぬ 尊雅

定法寺殿

櫻花

春風一まき人乃無うありて
あひらへ見ゆらや無さるる外も

西室殿

山河

日華は初く風乃屋きるるあけ
えゆくあけのしなけり

山家

山ひくくかきかたむむせのよ
まきくくくく海の松乃 紫

同

夏 伊震濯河

あつてすくくとあつる 結乃や
みゆえ川の水のしなえ 紫

摩多殿

浦堂

見ゆれ浦よめふ 風毛ぬく乃
なまゆめり磯松をえん 浦久

大徳寺 法庵和名

大智

不智

いっよと無きものなきて 去れ
となきくぬきぬきぬきぬき

天龍寺集卷之四

折柳橋

送東山之情難表何處呀者情盡橋
自寺改名為折柳任他離恨一條

相國寺方松後

波始恋

うたへぬ恋の心くもるやと
あまの心くもるやと

岡

波子

書恋

別後の心まじりぬ
とばし恋の心まじりぬ

岡峯長老

戊寅試毫

昨雨後形事物多紹隆佛種竺文後
南産缺舌蔑將變東帝嘗也

吉田堂瑞長老心手

芳月

客路經過水又山凄々清影一庭閑

顯吉

新嘉族亭看月新腸幾想像當年放白鵝

前南禪寺大愚和尚

似りてはさるる月影のさす
とらふに雲は橋のさす

東福寺僧

蚊雷

聞説蚊雷破柱鳴年禁針平遠黎の
夜來殿の裏天の影是群也戦鼓色



蓮仁寺僧

龍山賞雪

賞雪妙山無惟松社盟交今檢丸
朔風千里吹馬後覆以清雪

在松

雲廟庭む

半雲半院三月霞雲輿風袂弄芳鮮
我無礼幣捧齋到花錦雨染神道春廟

雲廟僧

雲

飛雲のふつとなま草一の
ふつとふつとふつとふつと

袖脩寺宮

海霞

神代らりともり素のまれば
手はくくくくくくくくくくく

隨心院

この葉とほりり袖のまれば
よりの中も神やうまうまうま

東叡山元量寺院

都月

よかえそあかえそあかえそ
都のまればあかえそあかえそ

東叡山元量寺院

丁おにせとてあかえそあかえそ
あかえそあかえそあかえそあかえそ

不新先院

くまのひるも物くけあかえそ
あかえそあかえそあかえそあかえそ

不新先院

初物

濃葉はかゆふあかえそあかえそ
あかえそあかえそあかえそあかえそ

野亭嵐

わづらひの嵐に
たじろむる心
も人も長光

同持教

池秋冬

池水に
つらみくらの
心も

大勝信友

岩山

岩代其の
心も

真言宗

嵐野暮

遠く
心も

東寺金勝院白清

山家

山家
心も

八幡

草花

草花
心も

岡新善坊

懐篇

懐篇
心も

岡松花堂

懐道

懐道
心も

女郎花

病の又もいふらせの美のし
せのさのいふもはし

貞和堂僧

芳行祝

玉の海より遠きもの哀氏
あふれ行く春の空に

普賢願寺安徳

八教

胸のあふこゝろは海に
流るるさる程の涙

同木食上人

千程の舟中より
あふれ行く春の空に

高野山木食上人應其 無言抄作者

あふれ行く春の空に
あふれ行く春の空に

本浦寺上人

あふれ行く春の空に
あふれ行く春の空に

北野 徳勝院

あふれ行く春の空に
あふれ行く春の空に

同

あふれ行く春の空に
あふれ行く春の空に

うき海しちよはかたよ比及津路

同
拉架寺文

雪埋竹

元可ぬもろしゆりぬ雪あふ
うきもれてうけ園は是竹覺尚

時宗

鳥

鳥代は伊みらうふまき成先
けう此駒のやうさきまふる其阿

同

梅雪

りそそわ梅はほひのしと雪
そそ梅乃方の成成る

内中雅堂
かきここと
いふくくえ
梅雪やうふ

老をひら梅乃けは雪察はる
かりひ屋らう本梅の若も後

同

秋夜

秋の夜はきりぎりすのこひし
うにりしきまのままはるの雪

拉架上人
かみ世

暮春

今を終る日敷をうらうそ弁たえの
梅もゆきうらう春の書はゆき

和奇四天王内
吉田系亦好

大乃小乃小とやいひせん乃花
やどのいせと小春をととるゆよ

同

いさつふしむるはむらさき
のうらみはむらさきのうらみ
のうらみはむらさきのうらみ

同

草

いさつふしむるはむらさき
のうらみはむらさきのうらみ
のうらみはむらさきのうらみ

同

預阿

いさつふしむるはむらさき
のうらみはむらさきのうらみ
のうらみはむらさきのうらみ

連歌宗匠

いさつふしむるはむらさき
のうらみはむらさきのうらみ
のうらみはむらさきのうらみ

公用堂

いさつふしむるはむらさき
のうらみはむらさきのうらみ
のうらみはむらさきのうらみ

宗祇執筆

待恋

いさつふしむるはむらさき
のうらみはむらさきのうらみ
のうらみはむらさきのうらみ

連歌宗匠兼載

いさつふしむるはむらさき
のうらみはむらさきのうらみ
のうらみはむらさきのうらみ

兼載流

いさつふしむるはむらさき
のうらみはむらさきのうらみ
のうらみはむらさきのうらみ

侍月

杜鵑

都を結わぬあつと久かきも
月乃内たふぬ音ぞれ 遠

同

隠

行かぬぬらむとわさしは
河を津の流るる人ぞ

和歌新法下

題 後法門院

芳玉志

わくわくあつりれ玉もいと
二つとていそふむらさき

同門多考常使反

新續古今隠名作者

癒地儀

あつり何中かきふわさる
ふもあつりわなれぬる

秋夕

月を照らす秋のふもあつり
あつりあつりあつりあつり

同 竟知

藤原

あつりあつりあつりあつり
あつりあつりあつりあつり

同

あつりあつりあつりあつり
あつりあつりあつりあつり

同

七夕

あつりの河清りあつり
あつりあつりあつりあつり

同

松上藤

了然母の夜まゝの松葉末の松
浪の波をうらやまの世に人共

徹書記

八
山岸

長夜さきものあゝ露の神をうて
縁花のうらやまの世に徹

同門身

山花

萬葉をうらやまの世に徹
うらやまの世に徹

同

若舟

難波の舟をうらやまの世に徹
うらやまの世に徹

堀下田屋指箱

同門身

山村燈

や海もくたはりの燈やうき世に
うらやまの世に徹

同

曉月

あそこの世に徹
うらやまの世に徹

同

あう造

風うらやまの世に徹
うらやまの世に徹

新路蕨

初春そのあひたるが如くして
いふはたけをさし乃花 春

恨恋

くすくすたるあつらひにほほはさ
げしのもれしんがあはれは

あつらひのしらべにひらひのまは

うはとあつらひのしらべのまは

あつらひのしらべにひらひのまは

あつらひのしらべにひらひのまは

うはとあつらひのしらべのまは
あつらひのしらべにひらひのまは

月をうらみし心のまは
あつらひのしらべにひらひのまは

我主安穩天人常
充備相當面作釈
一章 巡奉祈讃像
佛縁也

梅葉神

あつらひの木のしらべにひらひのまは
あつらひのしらべにひらひのまは

野宿

あつらひのしらべにひらひのまは
あつらひのしらべにひらひのまは

同

弄蹄恋

しほ寝草のつぼみはまはるきよ
思ひの露はまはるきよ

同時宗

病深

じつし野れそそきて病をさるん

山葉

山の木葉のまはるきよ

同宗節

人馬恋

あまのまはるきよ
まはるきよ

同

巨恨

絶恋

あまのまはるきよ
まはるきよ

建長

唐新

何方

あまのまはるきよ
まはるきよ

同

あまのまはるきよ

木のまはるきよ

同

郭

あまのまはるきよ
あまのまはるきよ

同

花漸盛

あまのまはるきよ
あまのまはるきよ

同
風を吹くはゆりの漂と云を舟に
くまに物もあかえり事ぬきさ仍

同
く飲ふ人もの懐花は宿神

同
寺にてあし見さるるを切三雲 三澤

同
以くは寺あし見さるるを切三雲
まの

同
風乃はもと本葉池の千松哉
同

同
元日見やこまきろくまき乃春を余後

同
か終くてあはれよむし平松
孫らみくたむる月を此と案

同
浅茅露
あつとせりゆれみのあはれ
ひるりしは浅茅出れぬ

同 栞屋

永日 入わひ乃輝めつ さま目見花

同

ちふ花乃ゆ美れふり美成
やめやすそ百思あそ遊見

同

香多しそ風ちあれあそ縁

同

山う隈かきし思し程乃花
昌程の巻

寛永三年

元日

来りまふりあそ知く為鹿昌見

同

霜の屯れあそ朝日昌通

同

思花

昔ぬきし思しあそあそ
花を若木とけりあそあそ

山崎俳諧師

犬籠の作者

侍縁

あそあそあそあそあそ
あそあそあそあそあそ

とけきふあめもあめぬらぬ
とせもあめぬらぬあめり

あつたまふもあつたまふ
あつたまふもあつたまふ

豊臣太閤秀吉公

たまふあつたまふのいつたのよしの川
こせんにのこせぬるあつたまふ

同内大臣

秋風もあつたまふり
あつたまふもあつたまふ

豊臣太閤秀吉公

東宮ゆき柳 遠く連ふ川
南枝水枝梅 西宮色異

金吾中納言

あつたまふもあつたまふ
あつたまふもあつたまふ

右田友

あつたまふもあつたまふ
あつたまふもあつたまふ

左田友

あつたまふもあつたまふ
あつたまふもあつたまふ

首露風

のまゝかゝるひのこゝろに
風ふかきぬるをさかすか

同 式支法

山

りかたしききりてふか
山はさかすかすかすか

同 刑支法

遠舟

山花

はるきよきよきよきよ
幾色もあはれぬるを

海舟

世事

寒草

よきおれようゆめありし
下とのまはにぬるを

本情

考社

はるきよきよきよきよ
おのゝこゝろにぬるを

本情

星鏡

はるかたしききりてふか
たうきよきよきよきよ

市部

馬守

星

よきおれようゆめありし
かりかたしききりてふか

山名

時面

よのこゝろにぬるを
よのこゝろにぬるを

細竹庵花鳥集

寄床志

鳥たもふ寝あはさむのる床のらふ
ふもてまらちりうもあはさむ

同

たこの時ぬさうしはさうそこの
まじらけ木乃ふとをそとをたふ

同

うらねとらあはつら母のあはつら
かたつらとまははははあのあはつ

同

かたつらとまははははあのあはつ
とれ乃あのみあはつらあはつ

神さやじふ卯月をねを
せんたんのあはつらあはつ

同

牧夷

東乃すはあはつらあはつ
わとねのあはつらあはつ

同

寝覚梅

あはつらあはつらあはつ
あはつらあはつらあはつ

同

あはつらあはつらあはつ
あはつらあはつらあはつ

閑

周

楊花恋

蝶とまじり星の逢ふとよき道
と錦なる中れ神のさく浪藤原

同

藤原の恋

綱鑑抄作者

待方

灯をそとて紙の重なりをたぐひ
ほれ古の流星をうつる夜に言

同

三斎

山雲のふりかへるを待たぬ
くさくさの春をけりて那

同

内

淨磨山

空の山くらくつとさきさきとほろむ
いさうくさくさくさくさくさく

武田四郎

おるまのいさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさくさく

夏水

かたむね乃とてはまきすの流し水
あやうき水はあやうき水はあやうき

赤杉

新緑雨

一葉らば木もさかたぬあやうき
つゆは秋をふたのさる風 瀟瀟

同

蒲生

神系

すまひの心は月をさへ下りて
あやうきあやうきあやうきあやうき

多しあり

霧

何處てはかき雲の嵐のりや
霧のあふくや小瀬に山満景

同

新免城入

月希鐘

泊船心かのつはひもあやえ
月よ白きよ時おきのを疑

西川掌おの

畧雉

この比の魚やかすのみを羨あり
きしうたかくあまの里の乃里務程

江州 齊若友

山家

しん店とほくさくらばは米橋の
名流のそとくはたつたわら

蒲生友

寒月

あつらんれんそくもてるもれ
厚や猿のそとくはたつたわら

同

野藤

いづれあひ枕の中かき藤は
志の向はる所はあま

依木京極友

散蹄跡

行通の志る魚ももれ
いづれあひ枕の中かき藤は

胡合友

心

胸中かき藤の中かき藤は
思はれあふるはゆせいの義賢

主

物はれも海濱をうたぐ
あふれぬも色なきの歌に
初世

同

新編の村歌當に江ふ新編の六

後胡窓

うらみしうらみしうらみし
あふれぬも色なきの歌に
初世

同

時雨

木の葉もく風も冷も
いそひあつたれば
初世

伊勢年々

春月

何みよあああ
三十一の月のうらみ
初世

同

春月

未ふけ七かき
清瀬河のあつた
初世

同

秋夜長

今秋は清瀬の月
初世

大向年々

思紅葉

紅葉もあつた
あつたはあつた
初世

同

題折原資定

秋夜長

今秋は清瀬の月
初世

古郡

草枕着落以ぬきとぬるり
くしほさくらあなまをりてしる國

同 大宮判

燧火

可憐き方秋のらふ火いさふひ
祢元此座其の信もとけりじ 國

大宮判

美伏乃人々り此杉とあつる
苑のりありあ梅乃下風 傲智

陶安房ちり友

曉眠

菊覚

多うききさあふるさき
たう夜はあはれは寝あそむる

同 五宮判

田家雨

秋の白くはしる風
あましく水くぬく

大宮判 内 主教師

法

こころあせにぬき
あまきぬき

仁保七郎ちり友

題 柳原資定

遠心

子桃

あまきぬき
あまきぬき

秋伯着子友

子鳥

うしほ境神あそむる
あまきぬき

相のまじり

古事云

山崎一抄

前ふし

青景越後音

初鷹 山崎一抄のついでに
也音のついでに

初郭

此のついでに
也音のついでに

内藤

河

水と花のついでに
也音のついでに

産

山のついでに
也音のついでに

同

覆堂

時雨

此のついでに
也音のついでに

竹中

松柳

月柳

此のついでに
也音のついでに

同

初鷹

此のついでに
也音のついでに

竹中

松柳

松油

此のついでに
也音のついでに

内藤彦人友

銀内義向翁物後道

五

五月まじらに秋意をいふ末に
雲の海東梅の小舟のゆくは
澄み

大内友内 生多輝

弄柏燕

たのむはるる今を秋瑞のひの川
うらむも風はよとく身の水舟

枚原友

新筑波作詩

龍水

とふ布乃ねさし秋意を秋に
けさたての秋意を秋に

竹中兵衛友

狂徒

秋意を秋に秋意を秋に
うはるる秋意を秋に

人事

身は魚世のゆくは秋意を
さゆるる秋意を秋に

細見河内身友

せしはるる秋意を秋に
秋意を秋に秋意を秋に

志山辰子補友

風千鳥 書あり風はるる秋意を
秋意を秋に秋意を秋に

秋意友

青山窓

ちりちり秋意を秋に
あつちの秋意を秋に

徳分

とく病毛後るらんま終り

まよとらけ夫れ森乃志のん小歳

井口金剛大歳

疎

一村のよりれもとあといまげく
と〜き枝のまえの〜とく 素

若原美波

山雪

と物えんれと山又雪よまを
おろけかそはは木の松原素候

同

在明月

雲霧の影さるいもあつ月の
月よわむいん其は凡 素候

雪羽天を流流

雪中

独歩

少人のと朝かふもやうん
ワ海の〜ゆき乃是わ〜

津波勢

雪生

夕雪を〜花〜あつもの海
吹〜も〜や中庭〜

上野民部

雪生

お花ゆ〜りのあ〜れよ程
お〜し〜く同〜も

本

春雨

長〜の〜た〜あ〜ん
や〜え〜い〜い〜

大正五年大浦及

若徳

数下し心まいたるをいかに
何人かきうし神おしきるをえ高

田原丸張舟及

雲間

杖きよし上野の春ふりあつ系

初鷹

雪路に今うたの序白と初鷹

土岐五右衛門及

初鷹

春をよにさそくかぬりしあぢり
るに杖杖とていささしりねえ家

大田越後舟及

ふ植

おあひめしきまもそくれの申植外
のうそくもいかにささるる

世田帯力及

梅

あいつの梅のうらりうらりねあの人て
むらさきもももいかにささるる

岩山及

初花

うらりねす梅のうらりねす
今年の初花は伴うてささるる

北千代舟及

各地儀

海心の梅をいかにささるる
津の梅もいかにささるる

半井舟及

うらりねす梅のうらりねす
うらりねす梅のうらりねす

十市々 和列佳

名所

喜の初やまふあひは影を

春月みまればひさかたをせん遠慮

惟宗及

頭 後小松院

葵

あはれをば人こころ神よかふくれ
日影のふれあひのこころい 葵

東野洲

あつ月乃月もなりのね松のそ
いとほとわふすたはさきじりくき家

周中一夜

寂庵

ツツ

うの初の言も時々の初を月
あうねかたは下ぬ志くね

飯丸ききり之符

田家

人とゆゑを田のあつちあきん
あつちあきんあつちあきん

典皇統行るる

山家

ふらふらふらふらふら家や
ふらふらふらふらふら家

ふらふらふらふら

あつちあきんあつちあきん

あつちあきんあつちあきん

松永陣守

春を逢

あつちあきんあつちあきん
あつちあきんあつちあきん

和歌

蓮

すく世の人志公をとりしは
にたり小春ぬ露れちりて秋を

伊弉諾

郭

あまのこゝろに
あまのこゝろに
あまのこゝろに

同

月

あまのこゝろに
あまのこゝろに
あまのこゝろに

鳴津

あまのこゝろに
あまのこゝろに
あまのこゝろに

毛利

山に花はあまのこゝろに

輝元

同

あまのこゝろに
あまのこゝろに
あまのこゝろに

灵山

代簡一為高橋浦
あまのこゝろに
あまのこゝろに

本

あまのこゝろに
あまのこゝろに
あまのこゝろに

小堀遠江守友

年の
くわ
言ふまじうよ母よいつて
くわよかきうぬおんぬらまじりて
痛

同内書在友

はらうちらこみ
うらやうたおちうらやう

信長公在筆

依慈
神よふう
あふうぬんと
神

徳吉院玄徳法印内梅斬

中しくふ
たふ紙
将

鳥敏

新秋露

おんふじ
宗慶

和久井守在友

楓
おんふじ
宗慶

中原守在友

浮も
おんふじ
宗慶

長福院在友
直事友相おしり

常夏
おんふじ
宗慶

注友 考形云母等

思つておぼろげな心さへ
あつたふりなうと物なう人

小野村通

梅風

梅のさけちうさぬほの
あつたふりなうと宿つたあま

之内 板倉仔嶺身之内

思

思つておぼろげな心さへ
あつたふりなうと物なう人

考形云母等

秋冬

さきつらふり露たけなうと
花の色よきと庭のまね 秋

一切之數

百二十拾六

一短冊數

六百拾六

都七百五拾二筆 墨付百八枚

右之分板列とて又目利とて一宮

類考不之類考とて令授合者

筆者

稱硯臺

延寶三元卯年仲夏吉祥日



書肆 中尾一郎長清板行

寬

斗

集應元九卯年

